

清流の国ぎふ 防災・減災センター げんさい未来 塾スーパーバイザー



いさかやすしげ
井坂泰成

1969年兵庫県神戸市生まれ。垂井町在住。

東京大学文学部卒。南山大学大学院人間文化研究科教育ファシリテーション専攻修了（教育ファシリテーション修士）。日本放送協会（NHK）にてディレクターとして番組制作に11年間従事した後、複数の国際協力NGOで途上国の地域開発援助事業に従事。帰国後、2011年から翌年にかけて、東日本大震災の災害救援・復興支援活動に携わり、福島県いわき市ではボランティア・コーディネーター、宮城県気仙沼市では地元復興支援組織内部、及び仮設住宅代表者会議のファシリテーターとして活動。合意形成のコンサルティング会社を経て、2016年よりファシリテーターとして独立。まちづくりワークショップ、自治体主催の市民討議会、企業・団体の会議等の企画・進行を担うとともに、ファシリテーションや円滑なコミュニケーション方法を教える研修講師として活動している。2014年に移り住んだ垂井町において、まちづくり住民団体の会議のファシリテーターを務め、2017年度からは地区住民による防災活動計画づくりの支援に携わる。2017年度清流の国ぎふ 防災・減災センターコーディネーターに就任。「誰もが主体的に関わる“参加型社会”の実現」を目指し、「対話の場づくり」と、それを担える人材の育成に尽力している。



いわいけいじ
岩井慶次

1956年恵那市に生まれ、アマチュア無線技士や消防設備士の資格を取得。恵那市防災研究会会長として防災講座の講師を務めながら地域の自主防災組織の重要性を説く。東濃地方をはじめ、愛知県、長野県の防災団体とともに発足させたネットワーク組織「地域防災ネット中部」の会長を務めている。趣味のアマチュア無線がきっかけで、電気設計設備会社の役員を務めながら「恵那地区アマチュア無線防災協議会」の会長として警察や消防と連携しながら、非常時の通信体制などについて行政と協定を結びボランティアで支援している。2006年に防災士の資格を取得し、各地で防災の心構えや災害時のノウハウを伝える活動をしている。2012年5月には東日本大震災の貢献が認められ、社会貢献支援財団より表彰されている。2015年4月より、岐阜県と岐阜大学が共同設置した地域防災の実践的シンクタンク機能を担う「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任。さらなる高度な知識や見識を習得し、地域防災の要となる人材である「防災エキスパート」の育成に尽力している。



くりたのぶゆき
栗田暢之

1964年岐阜県瑞穂市（旧穂積町）生まれ。名古屋大学大学院環境学研究科修了。1995年阪神・淡路大震災で当時勤務していた大学の学生ら延べ1,500人のコーディネートを努め、以降現在までに35箇所を超える自然災害の現場で支援活動を展開している。またその現場での学びを生かし、地域防災力の向上や災害ボランティアの育成等に尽力している。2000年東海豪雨水害時は愛知県庁内に設置された「愛知・名古屋水害ボランティア本部」の本部長を務めた。2011年東日本大震災では東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人、愛知県被災者支援センター長なども務める。震災がつなぐ全国ネットワーク代表、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議幹事、その他、中央防災会議専門調査会委員ほか国の省庁や愛知県地震対策有識者懇談会委員など愛知県や名古屋市などの各種検討会委員も歴任。名古屋工業大学大学院、至学館大学の非常勤講師も務める。2015年清流の国ぎふ 防災・減災センターコーディネーターに就任。



にしだしげなり
西田重成

1944年大垣市生まれ。1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」の際、被災した長男救出のため地震発生から3日目の早朝に神戸市に入る。そこで見た驚愕の光景に大きく影響を受け、それ以降に発生した大地震や水害等の災害ボランティア活動に多数参加。2011年に発生した「東日本大震災」では、岩手県・宮城県において数度の調査・支援活動に従事しており、現在も継続中である。2006年6月に「防災士」の資格を取得し、2007年4月より「防災意識」の啓発活動を開始。以来、岐阜県をはじめ県内市町村や各種団体、自治会、学校、民間企業などの招きで講演会・研修会の講師や防災訓練、DIG（ディグ：災害図上訓練）、HUG（ハグ：避難所運営図上訓練）の指導を多数実施している。また、各地域の社会福祉協議会が開催する「災害ボランティアコーディネーター養成講座」の講師も多数務めている。2015年4月より「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任、さらなる高度な知識や見識を習得し、地域防災の要となる人材「防災エキスパート」の育成に尽力している。なお、地域の自治会長としても活躍中である。



こやま ま き
小山真紀

1972年岡山県生まれ。1998年山口大学大学院理工学研究科知能情報システム工学専攻博士前期課程を修了。NTTでシステムエンジニアとして勤務した後、1999年より(財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所で地震防災に係わる研究に従事しつつ2004年に東京工業大学総合理工学研究科人間環境システム専攻にて博士(工学)を取得。

2010年より京都大学の安寧の都市ユニットにおいて、「少子高齢社会を踏まえた、平常時から災害時まで生きやすく、粘り強いまちづくり」について教育・研究に従事。2015年より清流の国ぎふ防災・減災センター、および岐阜大学流域圏科学センターにおいて防災・減災に関わる人材育成・研究に従事している。専門は地域防災学であり、ハザードとリスク評価、人間行動と死傷、市町村の防災対応など事前(事後)・最中・直後通じた減災に関わる研究を続けている。現在は地震防災だけにとどまらず、世帯及び地域コミュニティにおける防災力(世帯・地域コミュニティの災害に対するレジリエンス)などに着目した取り組みを進めている。



むらおかはるみち
村岡治道

1971年京都府生まれ。1996年関西大学大学院博士課程前期課程修了、1999年大阪大学大学院博士課程修了。1999年より大阪大学大学院(助手)、2000年より民間研究所で勤務。1999年博士(工学)、2002年技術士(上下水道部門 下水道)、2003年技術士(建設部門 建設環境)。都市水害対策をテーマに技術開発ならびに社会実装計画立案に従事。高度な最先端技術に関する研究と実務に携わりつつも、土地

利用の不適切さや自助の普及が足りないために被害が減らないことを痛感。2013年愛媛大学防災情報研究センターに准教授として着任して以降は、啓発活動や防災教育支援を通じて、「危険を見極め回避するために必要な目利き(想定外を想定する力)」の育成・普及に取り組む。2014年岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター特任准教授。2015年春、単著「自然災害防災教本—実践したい自助—」を出版。2016年4月より「清流の国ぎふ 防災・減災センター」コーディネーターに就任。2017年4月より岐阜大学地域減災研究センター特任准教授。